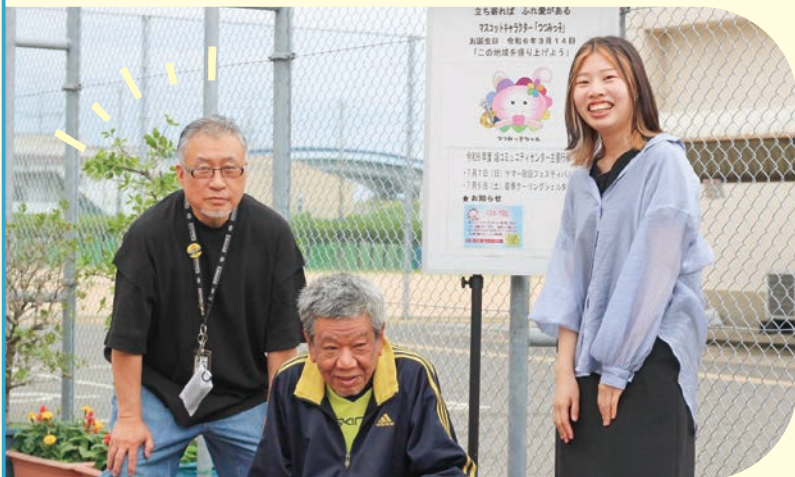


子どもたちがSOSを出せる地域に

高槻市 桜台みんな食堂 山田裕三さんがつくる

★ ゆるやかなつながり

お話を
いただいた方桜台みんな食堂 代表
山田 裕三さん一般社団法人タウンスペース WAKWAK
藤本 彩さん

インタビュー・ライター:

認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ 圓藤

撮影: 認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ 中谷

堤コミュニティセンターに場所を移して初めての「桜台みんな食堂」開催後、代表の山田さんに、子ども食堂に関わるようになったきっかけから、これから地域でやっていきたいことまでお話を伺いました。

和やかな雰囲気の中、山田さんのユーモラスな人柄が感じられ、話の尽きない楽しいインタビューとなりました。

子ども食堂に関わるようになったきっかけ



子ども食堂に関わるようになったきっかけを教えてくださいませんか？

山田さん もともと板前として水商売の中で育ってきて、社会貢献的な世界はあまり知らなかったけれど、『ビッグイシュー日本^{※1}』の販売をしている中で「真逆な世界」に目覚めていきました。ホームレスの方々に対し「なんで働けへんねん」と思う側にいた自分が、実際に「働きたくても働けない」状況になり、ほかにも同じような人たちがいることを知って、そういう困っている人たちがいる世の中で、何かしたいなと思ったのが始まりです。そんな頃に、ビッグイシューの読者だった保田さんという方が、何か一緒にやりましょうかと声をかけてくれました。子ども食堂はビッグイシューの記事になっていたり、手伝いに行ったこともあったりして知っていたので、はじめは保田さんたちと一緒に別の子ども食堂（えん食堂つむぎ）を立ち上げました。そこで調理担当をしていたつながりがあって、今は「桜台子ども食堂」もしています。

※1 ビッグイシュー日本：社会的企業である有限会社ビッグイシュー日本によって「ホームレスの人々の救済（チャリティ）ではなく、仕事を提供し自立を応援する」ことを目的につくられている、すべての人、特に若者が希望をもって生きられる社会をつくる雑誌。路上販売した売り上げの50%以上がビッグイシュー販売者の収入となる。





藤本さんと出会った時のお話を聞かせていただけますか？

山田さん 初めて会ったのは「えん食堂つむぎ」でしたね。

藤本さん お会いしてもう3年は経っていますよね。元々「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク^{※2}」に参加された保田さんが子ども食堂をしたいと話されていて、一方でお寺の場所が使えるよという話があったので、やりたい人と場所をネットワークの中でつなげて「えん食堂つむぎ」が始まったという経緯があります。

山田さん 子ども食堂をやりたいですというつぶやきから立ち上げまで、とんとん拍子に話が進み過ぎたので、ちょっと慌てましたけど。藤本さんも摂津市で子ども食堂や学習支援の活動をいろいろやっているの、勉強の一環でそこにお手伝いに行きましたね。

藤本さん 「えん食堂つむぎ」のメンバーとして山田さんもアクションネットワークに参加されている中で、私が高槻市外でしているボランティア活動のことも知ってくださっていました。一度見学に行きますということで、その日は共生食堂と子ども食堂、学習支援と終日かけて居場所の活動があったのですが、すべてに同行してくれて、調理や遊び、見守りなどをお手伝いしてくれました。その後もお手伝いに来てくれたり、個人同士のつながりで話したりする中で、山田さんから「自分も子ども食堂をやりたいんや」という話がふわっと出てきていた頃、桜台校区のクリニックの先生からも、クリニックを拠点に地域で何かしたいという話がありました。同じ桜台の中で居場所づくりをしたいという人たちがぼつぼつ出てきたので、「桜台校区ネットワーク」を作ったんです。ネットワークでそれぞれ想いやできることを出し合っていく中で、最終的に山田さんが手を挙げてくださって「桜台みんな食堂」が始まりました。

※2 地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク：高槻市内において子ども分野をはじめ多様な活動を行う団体、企業、大学、学校、行政、個人等の関係者が一同に会し、顔を合わせ、情報交流をする中で「第三の居場所づくり」を支援・行動していくためのゆるやかなネットワークを築くためのプラットフォーム

サッカーのできる子ども食堂



「桜台みんな食堂」のここがポイントというところを教えてくださいませんか？

山田さん サッカーを教えてくれる人がいて、サッカーができる場所がある、ということが一番かな。サッカーをする側として「ダイバーシティサッカー協会^{※3}」の活動もしています。堤コミュニティセンターにはグラウンドがあるので、今日は「野武士ジャパン」の練習でコーチをしてきている人が来て、ここでもコーチとして子どもたちを教えたり、遊んでくれたりしていました。「桜台みんな食堂」の立ち上げからちょうど1年経って、今日は場所をここに移動して初めての開催でしたが、伊藤館長がよくしてくれて、とてもいい感じです。グラウンドを使って、何かできることはないかなと思っています。



※3 ダイバーシティサッカー協会：多様な背景を持つ人がスポーツを通じて自分らしく生きられる社会を目指して2017年7月に設立された団体。野武士ジャパン（NPO 法人ビッグイシュー基金のクラブ活動として発足した、ホームレス当事者や経験者によるサッカーチーム）を中心に、多様な社会的困難を抱える当事者と支援者がつくるチームのネットワークによって、「居心地のいい」サッカーやスポーツの実践を広げるために活動している。



ボランティアの皆さんが活動に参加されるようになったきっかけを教えてくださいませんか？

山田さん 知り合い同士の話の中で、こういうことやっているけれどボランティアしませんか？となって参加することが多いと思いますね。学童保育をされているとか、もともと関心がある人も多いです。今後、市やコミュニティセンターにも協力してもらって、まだまだ人集めもしていかないと考えています。ボランティアだけでなく、ピラを配ったりして、

子どもやお年寄りにももっと参加してもらいたいですね。

藤本さん WAKWAKの拠点がある富田地区の小学校で校長先生をされていた方が、桜台の小学校の校長先生になられていて、「桜台校区ネットワーク」が立ち上がった時に、実際に足を運んで、参加してくれました。子どもたちが地域に出ていく・地域と学校がつながることに理解があって、情報共有したり、新しくこども食堂を始める時に小学校にピラを配りに行けたりするのが、この地域の良さだと思っています。

子どもたち同士の口コミもすごいので、新しくなったこの場所でも一気に参加者が増えそうな気がしています。

いろいろな人にいろいろなことを相談する



こども食堂を続けていく中で、良かったことや、逆にたいへんだと感じたことはありますか？

山田さん 良かったことの一番は子どもに元気をもらえることですよね。我慢しないといけないこともありますけど……

藤本さん 「ゆうぞう！ゆうぞう！ちょっと来て～！」と下の名前で呼ばれていましたもんね。

山田さん 最初は返事しなかったですけど、もう仕方ないですから（笑）たいへんなことは……なんかけっこうまくいくので、深刻にはならないですね。困りそうなことがあっても、いろいろな人に「これ、どうにかならんかな」と話した方がいいとは思っています。

藤本さん ちょっとしたことでもよく電話をくれたり、相談してくれたりしていますよね。もともと人脈も広いし、人望もある方なので、いろいろな人にいろいろなことを相談して、その中でぼやっとつづやいたことをみんなが考えてくれるような感じじゃないですか？

山田さん 自分が頑張ってもしょうがないときはしょうがない、とは思っています。でも、誰かが声をかけてくれるので、それはすごく助かっています。

藤本さん WAKWAKとしても、これから企業と連携して食料支援などを始めていくので、できることはしたいと思っています。ほかにもビッグイシューの読者さんたちが支援してくれるようなので、そういう人たちとのつながりがあるのは強いなあと思いますね。



SOS が出せる場づくりを地域で



山田さんがこれから地域でやっていきたいことなど教えていただけますか？

山田さん のびのびとして個人でみるとええやんと思うけど、集団の中に入るのが難しいような子もいます。「気になる子」は知らない間に来なくなって、どこにいるのかわからなくなったりします。子どもたちも大人になっていくので、離れた頃にまた来るようになることもありますけど……こども食堂に行っていることで変な噂が広がるのが怖いという理由で、こども食堂に来ない人もいっぱいいると思う。その辺の解決策は難しいところですね。でも、もし悩むことがあるなら、その道筋を教えてあげられるようにしたいし、それを無理に教える必要はないけれど、SOS が出せるような場づくりを地域でやっていく必要があると思っています。この地域の人たちで、そういったことを一緒に考えてもらえる人を増やしていきたいです。子どもたちとの関わり方はあえて決めない。あっちを立てればこっちが立たず……となるのが嫌なので、「俺はこんなんやから」というスタンスが一番いいんじゃないですか。体はあちこち痛いし、持病にも気をつけないといけないけれど、今後もやれるうちはやろうと思っています。これから助成金なども申請して、特に学生のボランティアさんに交通費くらいは出してあげられるようになりたいですね。子どもたちがいつ離れていつ来るかは自由でいいと思いますが、こども食堂をやりだしたら、来てくれる子どもがいる以上は辞められない。お年寄りも子どもたちから元気をもらえるし、子どもたちからお年寄りまでみんなが参加できるのはよいと思うので、それを続けることが大事だと思っています。



kodomo shokudo